



米トランプ氏_ベネズエラ首都軍事施設攻撃



スイス_スキーリゾート_バー大規模火災

ゆく年くる年を先週の木金に挟んだ1週間が終わりました。一昨日2日の夜は高円寺でも雪がちらつきましたが、朝起きたらもう雪はありませんでした。年末年始の帰省や旅行からのUターンで交通量が増えた2日夜から3日にかけて、雪の影響で広島、山口県境の山陽自動車道・広島岩国道路が通行止めになり、周辺の国道2号も渋滞するなど道路網が大混乱し、ドライバーたちは長時間の運転で、一様に疲れた表情を見せていました。山陽道上り線の宮島SAは、渋滞を抜けた人たちでごった返し、SA内のガソリンスタンドには給油を待つ長い車列もできていました。一方、新幹線や飛行機はおおむね通常通りの運行だったとのこと。JR広島駅や福山駅の新幹線の改札やホームは、スーツケースを手にした家族連れたちで混み合い、広島空港や岩国錦帯橋空港から羽田への航空便も多くがほぼ満席だったとのこと。2日夜の雪の影響で、3日未明から朝にかけて、東京都内などでも路面凍結によるスリップ事故が相次ぎました。千葉県市川市内では、3日午前2時から午前5時までの間に路面凍結によるスリップ事故が合わせて8件起きていて、駆けつけたパトカーも巻き込まれていました。東京都心では2日に初雪が降り、1cmの積雪を観測していて、正月三が日の積雪は48年ぶりとのこと。

1日未明、スイス南部ヴァレー州の高級スキーリゾート地、クランモンタナにある観光客などに人気のナイトクラブ“ル・コンステレーション”というところで大きな火災が発生しました。原因については、シャンパンボトルに取り付けられたスパークラー手持ち花火が、天井に近づきすぎたとのことだったとのこと。火事は1日午前1時半ごろに発生し、40人が死亡、119人が負傷し、死体は判別がつかないほど損傷しており、負傷者も重症者がほとんどだそうです。すべての状況から火災はスパークリング・キャンドル、つまりスパークラーから始まったと考えられ、シャンパンボトルに取り付けられていたものが、天井に近づきすぎ、そこから炎がモーレツなスピードで広がったようです。先

般の香港での高層マンション群の火災ほどではないにしても、これだけの被害が出た事故も珍しいケースです。

また今朝起きたら、米軍によるベネズエラ首都の軍事関連施設への地上攻撃と同国のマドゥロ大統領夫妻の拘束の報道が飛び込みビックリです。何やら地球の上でまた新たな火種がくすぶり始めました。報道では米軍の戦闘機や無人機など計 150 機以上の軍用機が投入され、市民を巻き込んで 40 人以上の犠牲者が出たとのこと。また米軍は作戦実行に先立ち、マドゥロ氏の居場所を特定し、数ヶ月間にわたり行動パターンや食習慣、服装、ペットの種類に至るまで分析し、攻撃のタイミングを見極めたうえで、寝込みを襲うという、用意周到の作戦だったことを伺わせます。トランプ大統領も自身の SNS に米国がドゥロ大統領夫妻を拘束し、アメリカに連行したとの記事を掲載したそうです。突然の発表ですが、トランプ大統領は、以前のインタビューで、マドゥロ大統領の余命は長くないと述べていたとか。それを実行に移したということでしょうか。それにしてもトランプ大統領のやり方はあまりにも乱暴すぎです。米国内で起訴されているとはいえ、海外に居住する人物を、軍隊と法執行機関の担当者が国境を超え、逮捕するとい行為は、その国の国家主権を踏みにじる内政干渉です。しかも、その人物が大統領となれば、どう抗弁しても国際法上、許されることはありません。さらにベネズエラをしばしの間、米国が運営するとも言いだしています。トランプ大統領いわく、“米国の大手石油企業に数十億ドルを投じさせ、損なわれたインフラを修復させるつもりだ”“大量の石油を販売していく”と豪語しています。乗っ取り？先日ノーベル平和賞を受賞したばかりのベネズエラの野党指導者マチャド氏は、SNS に“自由の時が来た”と投稿したとか…。やっぱ政治家はなんかキナ臭いですなあ…。反米感情の強いロシア、中国など共産国一独裁者一はじめ、世界各国が抗議行動を起こしていますが、“米国のポチ”高市さんはそれでもトランプ支持を表明するのでしょうか？その高市さん、韓国の新聞紙上で旧統一教会とのスブスブの関係を暴露されています。東京新聞本日の“本音のコラム”で前川喜平さんが詳しく説明しています。

高市首相と旧統一教会 1月4日付

前川 喜平 — 現代教育行政研究会代表 —

韓国のハンギョレ新聞が、旧統一教会の徳野英治会長(当時)が、韓鶴子総裁に提出した一連の報告の内容を報じた。そこには自民党との密接な関係が記されており、高市早苗首相に関する記述もある。日本のメディアの扱いは再差異が、同新聞のデジタル版は日本語で誰でも読める。

同新聞によれば、徳野会長は衆・参院選や自民党総裁選について、動向分析や統一教会が推す候補への選挙応援状況を詳細に報告していた。2019年7月2日には安倍晋三自民党総裁(当時)と20分間面談し、参院選で北村経夫候補を応援する決意を伝えた。同席した萩生田光一幹事長代行(当時)にはエルメスのネクタイを贈呈したという。21年の衆院選挙では自民党だけで290人を応援したそう。

同新聞によれば、報告には高市氏の名前が 32 回登場する。21 年の自民党総裁選では「高市氏の後援会と我々は親密な関係にある」とし、岸田文雄氏と高市氏が選ばれることが「天の恵みだと思われる」と報告した。岸田内閣での解散命令請求には裏切られた思いを強く持つことだろう。以後高市氏推し一本になったことは想像に難くない。去年の総裁選でも全力で応援したのだろう。

高市氏や萩生田氏には改めて旧統一教会との関係を説明する責任がある。メディアも野党もしっかり追及すべきだ。

やっぱりこのスブスブがあるから、高市さんは同性婚や夫婦別姓には踏み切れないということか。もういい加減にしたらいかがなものかと思いますが…。去年は昭和 100 年、終戦から 80 年の節目でしたが、今年は日本国憲法 80 年の節目になるそうです。高市さんも“改憲”にはリキを入れてるようですが、はて？どんな 1 年になるのでしょうか。東京新聞“本音のコラム”大矢英代さんがこんな論評を繰り返していました。

戦後 80 年の終わりに 12 月 29 日付

大矢 英代 — カリフォルニア州立大助教授 —

戦後 80 年という節目の年の「終わり方」は残酷だった。高市政権で安全保障政策を担う官邸関係者が、非公式の場で「日本も核兵器を持つべきだ」などと語ったと報じられた。個人の見解だったとしても、首相に進言する立場の言葉だ。軽く受け流せる発言ではない。

看過できないのはファシズム化した一部の国民の間で、この種の発言が「賛同」を集める傾向にあることだ。政府が中国、北朝鮮、ロシアの脅威を煽り、「抑止」の名のもとに核武装を叫ぶほどに、一定層からの政権への支持が集まることを為政者は知っているはずだ。高市首相が勇敢な「戦士」であるかのようなイメージが作られていく、恐ろしいことだ。

反戦平和の特集が多く組まれた今年、改めて思う。惨禍を伝え続けることは「過去の誤りを繰り返さない」という戦後日本のジャーナリズム礎だった。しかし、それでは抵抗しきれないほど日本社会は病んでしまったように思う。「ノーモア・ヒロシマ、ノーモア・ナガサキ」の原点は、核兵器による非人間化と人類絶滅の危機への抵抗だったはずだが、いまや被害の記憶が「二度と被害に遭いたくない」へ、さらには「そのためには核武装もする」と変化しつつあるように思う。危険な時代は続く。問われているのは、国民一人ひとりの非核を貫く覚悟と行動だ。

日本は核弾頭を作るのに 1 年程度だと言われています。日本中いたるところにある原発だって自爆テロ的な核弾頭のようなものです。ドローンやミサイルを撃ち込まれたら、たちまち日本は 80 年前のヒロシマ、ナガサキの二の舞です。“断捨離”使わない原発はどんどん廃炉にした方が身の安全です。今年が“戦争元年”にならないことをただただ祈るばかりです。

排外主義者と思わんばかりの高市さんをリーダーとする日本ですが、少子化、労働人口の減少により、国内の 20 代人口の占める外国人住民の比率が 2015 年の 4.1%

から急激に増えて昨年は9.5%、10年で2倍というペースで増えているとのこと。高円寺の商店街は、多くの外国人の若者たちがショッピングを楽しんでいたり、飲食店やコンビニの従業員は外国人の方がむしろ多いくらいです。特に目立つのは寿司職人がベトナムやミャンマーの若者が多いことです。感心するのは、会話だけでなく、漢字、ひらがな、カタカナの読み書きも自在にできることです。注文の受け応えもへたな日本人よりはるかに上手で、記憶力も素晴らしい！なぜこんな優秀な人たちを排除したいのか、僕にはまったく理解できません—劣等感？—。その人たちが犯罪をしたなんて話もほとんど聞いたことがありません。むしろ駅前のロータリーでたむろしている日本人の方のマナーが悪いように感じています。今後加速度的に人口減少が進むのは確実なのに、どうして外国人の労働力を活用しようとししないのでしょうかねえ。中国では一人っ子政策を廃止して10年になりますが、出生数は半減しているそうです。日本に限らずヒトは世界的に少子高齢化の傾向にあるようです。もう飽和状態に近いのでしょうか。でも中国は人口減少だけに限らず、習近平体制が崩壊に向かっています。ロシアのプーチン政権を含め、大国が劣化しているのが現状です。2026年、世界はどう動くのでしょうか。戦争を含めて、10年後にはどんな世界になっているのでしょうか。その時僕はまだ健在なのかな？それは神のみぞ知るといったところです。

正月三が日は、恒例のご近所の神社仏閣めぐりをして、友人たちに送る御札やお守りを買ってきました。毎日お天気が良くて、散歩がてら気持ちの良い初詣ができました。3日は落語でも有名な妙法寺から“東京のへそ”大宮八幡宮、馬橋稻荷神社とハシゴしましたが、昼時に大宮八幡の出店にひっかかり、勢いがついて酎酒3杯も飲んでしまいました。1時間もしたら結構酔いが回って千鳥足、なんか“正月、平和だなあ～感”を満喫してきました。日本がこのままずっと平穏でいてほしい、でも世の中には生活苦にあえいでいる人が、食品の無料配布に長蛇の列をなしている人たちがいます。ボランティアではなく、国が税金でその人たちを支えてほしいものです。

世の中は明日から仕事始めですが、僕の始動はもう少し先です。ここ6年、アスペクト分析の仕事にかかりきりでしたが、昨年で一度区切りをつけました。理想を掲げて取り組みましたが、現実はそのほど達成感も多くなかったようにも思っています。これからもう一度原点に立ち返って、環境分析に取り組む若い技術者の皆さんに何かを残そうかなと考えています。昨年の後半から少しずつそんなお話をいただいているので、その構想に肉付けをして企画してみたいと考えています。

去年は記録的な猛暑でしたが、今年はさらにそれに拍車がかかりそうです。体温よりも暑い気温の中で生きるというのが、これほど過酷だということを思い知らされました。個人的には加齢により、体力や体調が昔より経年劣化してきているので、特に厳しいのかもしれない。1年が始まったばかりなのに、もう真夏の心配をしている昨今です。

